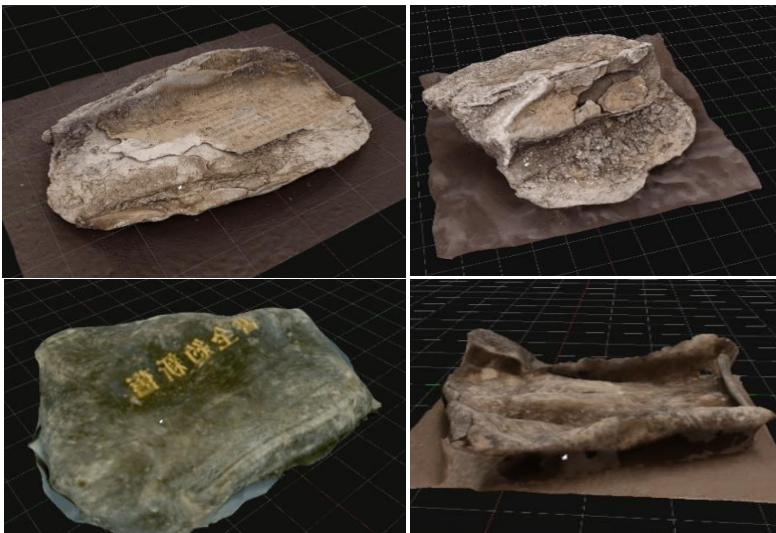


秋吉台の聖者 “本間俊平” 緑の事物のデジタルアーカイブ

山口大学教育学部/ひと・まち未来共創学環 教授 熊谷武洋

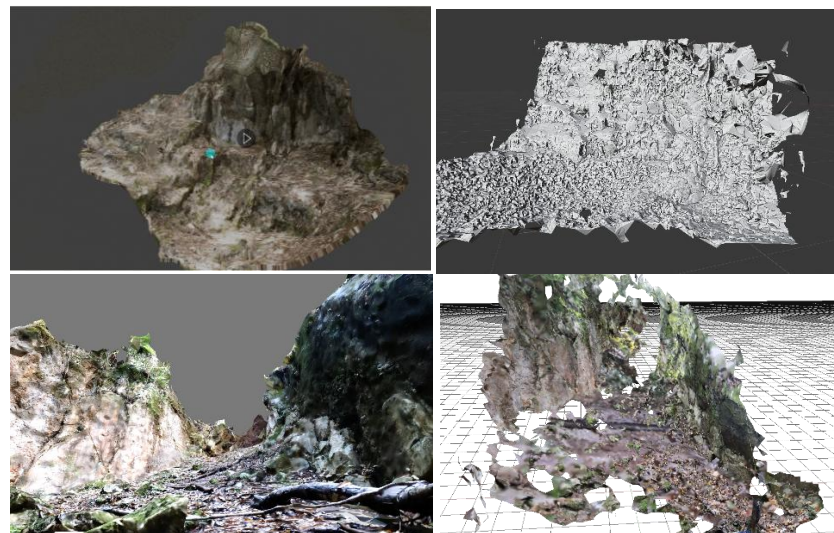


山口県の大理石業界の発展に寄与し、キリスト教伝道者・社会事業家として知られる秋吉台の聖者こと本間俊平の足跡をたどり、秋芳町内や山口市内に現存する事物をVR180・LRステレオ写真およびフォトグラメトリ技術によって3Dオブジェクトデータとしてデジタルアーカイブした。これらのデータはVRによって立体視閲覧が可能である



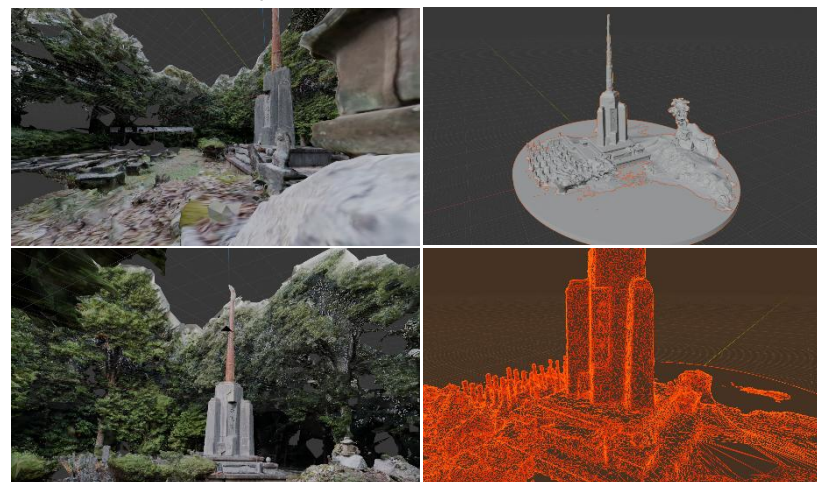
●メゾジスト教会祈祷書、旧新約聖書の表紙と本体

本間俊平氏が山口市後河原信愛教会の会堂建築の際、祈念に埋設したものである。保全処理が施されていないため数十年後には崩壊すると思われるが最低限のデジタル記録はできたので、実体物が脆化しても、情報としては今後伝えていくことはできる



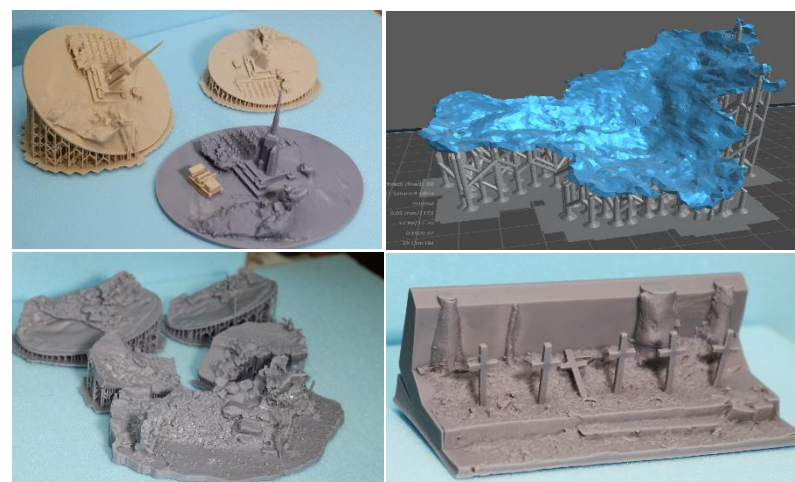
●経塚山内にある当時の石切り場（一丁場、六丁場採石場跡）

周囲全体に植物が繁茂しているため採掘場の稜線は正確に視認や標本化できなかったが、現場の雰囲気や印象を再現可能な精度でVRデータの標本化を行った。周囲環境以外にも削孔跡や大理石、祈りをささげたであろう現場記念写真の現在場所を特定し、それらの標本化も行った。



●忠魂碑

昭和4年（1929年）に本間俊平氏が費用を拠出し、呉で解体された二等巡洋艦厳島搭載の12cm砲の砲身を転用して現在の秋吉中学校裏手の丘陵地に建造された。2003年に白く再塗装したとのことだが塗料が剥離して下地が見えており劣化が進行している。VRデータおよび3Dプリントによって忠魂碑の全体を標本化した。



●3Dプリントした完成出力品

デジタル標本化したデータに基づき、プリントデータとして最適化するために修正や編集処理を行い、光造形によって立体化した。それぞれ忠魂碑：1/100、採掘現場：1/144六丁場の塚：1/72、墓所：1/48の大きさである。今後の課題としては更なる追加調査・アーカイブに加えてメタバース美祢へのジョイントを検討したい